

## 会 議 錄

### 1 会議名

令和7年度第4回谷浜・桑取区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

#### 【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

### 3 開催日時

令和7年10月17日（金）午後6時30分から午後7時10分

### 4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 坪田会長、横田副会長、安達（麻）委員、安達（光）委員、京谷委員、佐藤（幸）委員、白滝委員、田村委員、中原委員（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、丸山主任

### 8 発言の内容

#### 【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

#### 【坪田会長】

- ・挨拶
  - ・会議録の確認：安達（麻）委員に依頼
- 議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

#### 【丸山主任】

- ・資料No.1 「令和7年度第4回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」に基づ

## き説明

資料掲載のほかにも地域でいろいろ行事があったかと思うが、委員の皆さんとの間で共有しておきたいことがあれば、今日発言していただきたいと思う。

### 【坪田会長】

今、事務局から説明があったが、行事に関して、委員間で共有したいことはあるか。ここはよかったですから、みんなでどうぞといった感じでもよい。

### 【京谷委員】

私は、仕事で里神楽を見に行っていないが、出店している企業や地元のお店はあったのか。

(ない)

やるのであれば、お金を生む仕掛けを作らないと地域の発展は難しいし、特に食べ物があれば、また行こうと思ってくれるはずである。例えば、地元のカフェや、地域のお店等に委託し、何かしら利益につながるものがあるとよいのではないか。せっかくこんなに人が集まることは滅多にないので、考えていきたいと思った。

### 【坪田会長】

確かに、それは考えていく点なのかもしれない。せっかくイベントをやっても、結果的には、単に行事を見たということに留まっている。イベントの賑やかさ、雰囲気はなかなか谷浜・桑取区では味わえない。この神楽のときは、200人近く来ていたと発表されていたと思う。神楽だけでも感銘を受けるのだろうが、さらに雰囲気として、賑わって、人が大勢いて、フランクフルトを食べたというような思い出に結び付けられないともったいないかもしれない。

### 【京谷委員】

これは、人を呼び込んで利益を出してはいけないのか。主催はどこか。

### 【丸山主任】

桑谷里神楽伝承会が主催である。市の地域独自の予算事業を活用しているが、利益を出すことは問題ない。暑さ対策かジュースは売っていた。

### 【京谷委員】

食事と記憶はセットでできるものなので、キッチンカーを誘致、お弁当等を売ればきっといいと思う。さらにくわどり湯ったり村のチラシを配るとか。

## 【坪田会長】

神楽まんじゅうなど、やる気になればどこかとコラボできる。ただその人材等が伴わないと、どうなるかは分からない。主催者にアイディアを伝えるなどしていくのも地域協議会の一つの関りだと思う。

## 【京谷委員】

地元にお金を落とす仕組みを考えていかないと、やった、終わったはもったいない。

## 【佐藤（幸）委員】

飲み物は、お茶やノンアルコールは売っていた。それは主催者が売っていたが、食べ物はなかったと思う。

今回は18回目だった。私は大変なことだと思う。18年続いているわけである。上越地区、妙高から糸魚川まで含めて、こういうところは桑取だけだと思う。地区以外の人たちがずいぶん集まって、非常に評価が高い。子どもたちの演舞は、大したものだと思う。宮司さんたちの話によると、子どもは覚えが早い。技量も上がっているし、演舞だけではなくて、笛や大鼓も、どんどん挑戦するようになっていた。

私が驚いたのは、新しい演目が披露されたことである。宮司に、「新しい作品が出ていたね」と言うと、前々からあったのだが、各集落の神楽ではできていなかった。今やらないと、私たちがいないと、あとが続かないということで、そういう努力をされているそうだ。本来は23時まで、相当演目があると思うが、その一部しかやっていない。そういう点で今回私は行ってみて、子どもたちも頑張っているが、宮司さんたちの挑戦でもあると感じた。これはすごい財産だと思う。誇れる財産だと思う。

## 【坪田会長】

大変誇れる財産である。これをもっと幅広く進めてもいいと思う。身内だけでやっているような、そんな感じがしてならない。ほかに広めれば、かなり人が集まると思う。人数が来ればいいということではないが、そういうものが谷浜・桑取地域にはあると知らしめるためにも、宣伝しながら人を多く集めてもいいのではないかと思う。今、京谷委員が言わされたように、外回りもそういうお祭り的な賑わいを見せれば、雰囲気が倍増すると思う。ただそこを誰と、どのようにして主催者とコラボして、うまく話し合いをするのかという課題が出てくる。一団体だけではなく、地域全体のものとして捉えていけば、この神楽だけに限らず、いろいろなものがあるような気がしてならない。

## 【白滝委員】

私は当日の神楽を見ていないのでわからないのだが、基本的に、集まったのは地元の人たちだけなのか、外部の方がどれくらい来たのか聞きたい。半分くらい来たのか。

【坪田会長】

私の知る限りでは、谷浜・桑取の人と、公民館事業で谷浜小学校が名立太鼓と交流をしているので、名立の方とか上越の方が来ていた。見る限りでは、それほどではない。

【佐藤（幸）委員】

大きな会館で、文化会館やリージョンもあるが、里神楽は、観客との一体感というのも非常に重要なポイントである。演舞だけを外部から見るのもいいと思うが、観客と演技者の垣根がない独特の雰囲気がある。焼き鳥等を売るのもよいが、そちらに集中してしまう。子どもたちの熱演に集中してほしいということもある。なかなか簡単ではない。

【中原委員】

私は里神楽をずっと見させていただいているが、趣旨は子どもたちに地域の人が舞を教え、継承したいということである。今回も小学校1年生が出てくれたが、舞を忘れてしまった場面を観客が温かく笑顔で見守った。桑谷里神楽伝承会が熱意をもって子どもとやっていることに、利益に結びつける発想は、よく話をしないといけない。私も学校のいろいろなところで携わっている関係もあり、地域を盛り上げるためとは言え、なんでも商売の方向にもっていくのはできるだけ抑えたほうがいいのではないかと、個人的には思っている。

【丸山主任】

皆さんで、今意見を出していただいたようなことをまとめて、行事を主催する団体と意見交換するということも過去にやっている。馬の行事をやっている団体と意見交換をしたら、あまり来てもらっては困るという回答をもらい、それで地域協議会の話が止まつたりしているところがある。言うだけではなくて、どうしたら実行できるかまでのアイディアが求められている。またそういうことを話し合っていけるように進めていきたいと思う。

【坪田会長】

次に、学校を取り巻く環境について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

学校や移住関係について、上越市創造行政研究所の「持続可能な地区別まちづくり推

進事業」というプログラムに参加するということで、10月7日に藤山所長と事務局で打ち合わせをし、藤山所長にいただいたコメントをまとめた。

### 【内藤所長】

・資料No.1 「ウ. 学校を取り巻く環境について」「エ. 移住・空き家対策について」に基づき説明

40代、50代くらいの方は、今、仕事をされていると思うが、次は地域を持続させるための鍵になるということで、これから5年間、地域の皆さんのが立ち上がって、どのような取り組みをしていくか、これから話し合いをしていけないかということで、この事業を進めていきたいと考えている。

### 【京谷委員】

私はこの世代だが、正直なところ余裕がない。仕事をして、休日も町内会や消防等があって、介護や育児の人もいる。だから、楽しい感じのものでないと人は集まらないと思う。例えば、小さなことでも網羅して挙げてばいいと思う。インスタやフェイスブックで「いいね」をするだけであれば、多分みんなやってくれるはずである。あとはズームで会議をすることにして、集まらない。以前、男性限定で移住者だけを集めて飲み会をしたことがある。うちの夫は飲み会が好きではないが、非常に楽しかったそうである。

私が引っ越して一番驚いたのは、子どもが小学校のときの話だが、保護者がこの土地が好きではない人が多いということだ。不便だと言う。40代、50代で、この地域が好きだという人がどれぐらいいるか重要だと思う。親御さんがそういうことを言うと、子どもも多分あまりいい印象はないと思う。移住の人たちはあえてここを選んでいるので、多分それなりに思いがあると思う。移住者に意見を聞けば、この地域のいいところが見えるかもしれない。

### 【丸山主任】

今、京谷委員がおっしゃるとおり、ほかのモデル地区ではグループ分けで移住者グループを作った。ワークショップは、ヤンググループとベテラングループという感じに分かれ、意見交換するということもやっていく。移住者の方でチームが作れるなら、ぜひやってみたいと思う。

### 【白滝委員】

具体的に詰めていかないと40代、50代の参加は難しいのではないか。内容が掴めないので、参加者を説得することができない。

【内藤所長】

モデル地区として板倉区でやっていて、次回3回目になる。ご案内するが、それを見に行かなければいいかと思う。方法は考えさせていただきたいと思う。

【坪田会長】

皆さんまだ意見があると思うが、時間の都合があるので、次回に持ち越したい。

【丸山主任】

湯ったり村の件も、皆さんから回答いただき感謝する。まだ整理しきれていないところがあるので、皆さんで協議できるように整理したいと思う。

- ・次回協議会：会長と協議の上日程を決定

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。